

半田 雄三 議員

質問項目
1 朝倉市総合戦略について



Q 人口減に対しての対策として総合戦略ができ、その中で都市圏への通勤、通学の支援が取り上げられて

いる。しかし、その内容は甘木鉄道の博多駅直通電車の可能性調査が中心であり、バス利用者への対策が不足しているのではないかと。特に高速バス利用者のためには、駐車場の整備すべきではないか。

A 駐車場は、若干は整備しているが、現状で充分か

どうかは検討が必要である。利用者が少なく、廃止した場所もある。

Q 人口減少への対策として考えると、利用者が少ないから廃止するのではなく、何が原因で利用が少なかったのか、例えば駐車場が遠かったのか、入りにくかったのか、場所がわかりにくかったのかなどを究明し、再検討すべきではないか。

A 過去の調査では市外の方の利用が半分近くであり、市内の方の利用が少なかったこともある。

Q 一日1000円程度の利用者負担にすれば、市内外の方に関係なく、意義はでてくる。本当に便利であれば、利用者は1000円程度の出費を許容するのではないか。

A 近い場所に駐車場を作れば確かに有効だろうが、投資等財源的な問題もある。少し不便だと思うが、今ある駐車場を使っていたらいい。周知も行っていい。

Q 博多駅への直通電車の可能性調査について、今後他市町との連携について

はどのような状況にあるのか。

A 調査費用として9月の補正予算に上程しているが、沿線自治体や甘木鉄道の理事会などと打ち合わせを行い、調整が整っている状況である。

Q 都市圏へ通勤するバス利用者への対策不足では

A 駐車場が充分かどうか、検討が必要



市営駐車場から見る朝倉インター

日本一住みたくなるまちづくり 朝倉市の課題を問う

質問者10人、傍聴者73人

一般質問は、年4回開催される定例会の中で行われます。

ここに掲載したものは抜粋ですので、全文につきましては、会議録を閲覧されるか、市議会のホームページでご確認ください。

Q 定住促進に向けた人口増のための施策は

A 総合戦略を着実に実行していく

Q 総合戦略を着実に実行していく。目指し、総合戦略を着実に実施していく。

Q 結婚対策について、婚活対策に特化した係の設置はできないか。

A 結婚応援団体への支援や縁結び応援事業などに取り組んでおり、一定の成果が出ていますので、継続して現体制で取り組んでいきます。

Q 農地付き空き家を購入する際に、農地取得の下限面積が妨げになっていると考えられるが、見直しの考えはないのか。

A 現在、農地法の諸条件の緩和の承認に向けた作業を進めている。農業委員会とふるさと課が連携し、地方移住者の受け入れに配慮した魅力ある田舎暮らしの土台づくりを行いたい。

Q 自主防災組織の育成や



稲富 一實 議員

質問項目 1 未来ある朝倉市の創造について

Q 定住促進に向けた取り組みとして、働く場づくり、結婚対策、子育て支援、教育環境整備の4つが重要だと考えるが、人口増のための施策は。

A それら4つとも、定住に向けての大事な施策である。合計特殊出生率1・86



住みたくなるまちづくり

Q 農地付き空き家を購入する際に、農地取得の下限面積が妨げになっていると考えられるが、見直しの考えはないのか。

A 分団の統合などを含め、大きな事案だと考えているが、地域との関わりなどもあり、すぐに結論が出る問題ではない。今後の大きな課題であると捉えている。

Q 人口が減少する中で、消防団の運営に支障が出てきている。伝統のある消防団が合併した中であるが、改革に向けた取り組みができないか。

A 地域のよって取り組みに温度差があるので、コミュニティと連絡をとりながら、さらに自主防災組織の活動を推進していきたい。

Q 朝倉市は、人口が増加する福岡市近郊にある。この利点を活かし、ベッドタウン政策を打ち出したらどうか。

A 今年3月に策定した総合戦略には、ベッドタウン化という表現はない。人口を維持するため、交通便利



中島 秀樹 議員

質問項目 1 人口増加政策について

Q 強みを伸ばす政策で消滅可能性都市から脱却を

A 安定的な人口構造の維持は確かに不安がある

Q 甘木の中心市街地から都市圏へは1時間弱で着くことから、ある一定の要衝になっている。

A 甘木の中心市街地から都市圏へは1時間弱で着くことから、ある一定の要衝になっている。

Q JR九州などは、運輸部門の収益割合が小さく、不動産事業などで多角化している。甘木鉄道も、運輸収益だけで事業展開をするのは限界がきているのではないか。大手鉄道会社をまねて、沿線開発ができる人材を招くことが必要ではないか。

A 甘木の中心市街地から都市圏へは1時間弱で着くことから、ある一定の要衝になっている。

Q 「三輪それり」にならない民間と協業して甘木鉄道の沿線を住宅開発することは考えられないか。

A 民間業者と協力しながらやることは可能であるし、大いにやるべきである。



助けてくれるものは自ら天を助ける

Q その件に関しては民間と一緒にやるのはなかなか難しい。市ができるのは、用途地域の見直しなど周辺環境を整えることだろう。

Q 今一度立ち止まって、政策の相乗効果を

A もろもろの大型事業についてそのままやる

富田 栄一 議員

質問項目

- 1 日本一のふる里政策について
- 2 財政見通しについて
- 3 国道322号線のクラック解消と博多駅直通列車について



Q 財政の見直し試算表②を基に作成した表を見ていただきたい。それによると平成32年度には単年度収支が赤字になる。平成33年度は投資的経費が大きく減少する。それでも赤字である。平成35年度にはさらに投資的経費は減少するが、それ

でも赤字である。大型事業を行っても、財政はよくならないのではないかと。

A 大型事業を行っても10年間の財政運営はやっていける。

Q 維持補修費についてはどうか。

A 今後、既存施設の大規模改修や建て替えなどを行う年度が決まった段階で、財政見通しの中に組み込んでいく。

Q 平成27年6月議会において「東京都豊島区のように、庁舎とマンションを複合的な施設にするかどうか、検討の中の一つには入れている。」という答弁だったが、どの会議で行ったか。

A 実施していない。

Q 今、庁舎建設、総合的体育施設建設と大きな事業があり、財政見直しについ

ては赤字という現状がある。新しく322号クラック解消・駅周辺整備というまちづくりの環境の変化が生まれる。今直面しているそれぞれの事業、政策の相乗効果を、考え直したらどうか。

A 財政見直しは、見た目は赤字だが、運営上は基金を繰り入れるので黒字になる。財政見直しは、私共の戒めとして努力する。計画している大型事業は、このままやらせていただく。



新庁舎からまちづくりを

Q 新庁舎の整備位置は歴史資料館を挟んだ南側となるため、特に高齢者や身体障害者などの弱者にとつて、教育・福祉施設、ピーポ

ト甘木、卑弥呼の湯、甘木町中心街などからの市民の動きが極めて利便性に欠ける。また、敷地面積が現在



小島 清人 議員

質問項目

- 1 朝倉市庁舎整備基本計画について
- 2 農産物の振興策について
- 3 スポーツの振興について
- 4 交通の整備について

の庁舎よりも狭く、位置的に使いにくい場所にある。これらを改善するために、歴史資料館本館も購入し、歴史資料館の機能を庁舎の中に取り込み、市民の歴史や文化に対する意識高揚の充実・強化を図るとともに、新庁舎と教育施設などを総合的かつ一体的に活用することについて問う。

A 県立歴史資料館として県の支援を受けており、総合的に勘案し、敷地の南半分のみを購入する。

Q 第15代横綱梅ヶ谷藤太郎の多大な功績を後世に語り継ぐべく、貴重な功績を活かした朝倉市の特色あるまちづくりを問う。

A 大切な教育財産として積極的な活動を図り、観光施策としてわんぱく相撲大会に多くの児童が参加でき

るように工夫し、観光客へのアピールに努める。重要な観光資源として教育委員会と連携を図り、観光に結びつけていきたい。

Q 甘木鉄道利用者の利便性向上を図るために、小郡・鳥栖駅の昇降用エレベーター設置を促進すべきではないか。

A 必要性を十分認識しており、関係各課への働きかけを進めていきたい。



第15代横綱 梅ヶ谷藤太郎

Q 「ひとにやさしい」新庁舎の整備を

A 甘木歴史資料館南側に整備する